

1 人口動態統計

人口動態調査は、統計法による基幹統計調査として実施されており、「戸籍法」及び「死産の届け出に関する規程」に基づき、各市区町村長に届け出のあった出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の5種類の届出書等から、人口動態調査令により各調査票を作成する方法で行われています。

人口動態調査は国勢調査と並び、我が国の主要な統計の一つであり、各種行政施策の基礎資料として極めて重要な役割を果たしています。

(1) 全道概況

平成30年の北海道の人口動態統計は、平成29年と比較して、死亡件数は増加し、出生・死産件数は減少しています。婚姻件数・離婚件数は減少しています。

出生数は、平成7年に大正・昭和・平成をとおして初めて5万人を割り込みましたが、その後も減少傾向が続き、平成30年は32,642人と前年より1,398人減少しました。

死亡数は1,770人増加して64,187人となり、出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、マイナス31,545人で、初めて自然減となった平成15年に続いて16年連続の自然減となりました。(表1)

表1 人口動態統計の概況

	実 数				比 率		平均発生間隔	
	30年	29年	増減	増減率	30年	29年	30年	29年
出生	32 642	34 040	-1 398	-4.1	6.2	6.4	日 時 分 秒	日 時 分 秒
死亡	64 187	62 417	1 770	2.8	12.2	11.8	0:16:06	0:15:26
乳児死亡	62	65	- 3	-4.6	1.9	1.9	5: 21:17:25	5: 14:46:09
新生児死亡	32	33	- 1	-3.0	1.0	1.0	11: 9:45:00	11: 1:27:16
周産期死亡	118	149	- 31	-20.8	3.6	4.4	3: 2:14:14	2: 10:47:31
妊娠満22週以後の死産	95	123	- 28	-22.8	2.9	3.6	3: 20:12:38	2: 23:13:10
早期新生児死亡	23	26	- 3	-11.5	0.7	0.8	15: 20:52:10	14: 0:55:23
死産	881	990	- 109	-11.0	26.3	28.3	9:56:36	8:50:55
自然死産	388	430	- 42	-9.8	11.6	12.3	22:34:38	20:22:20
人工死産	493	560	- 67	-12.0	14.7	16.0	17:46:08	15:38:34
婚姻	22 916	23 960	-1 044	-4.4	4.4	4.5	0:22:56	0:21:56
離婚	9 971	10 147	- 176	-1.7	1.90	1.92	0:52:43	0:51:48

注1) 比率

乳児・新生児死亡率…出生千対、周産期死亡率…(出生+妊娠満22週以後の死産)千対

死産率…出産(出生+死産)千対

その他…人口千対

2) 率算出に用いた人口は、各年10月1日現在の推計日本人口(総務省統計局)27年は、国勢調査日本人口。

(2) 二次保健医療福祉圏別概況

二次保健医療福祉圏別に各事象の比率をみると、出生では富良野圏が7.2と最も高く、東胆振圏の6.7と続き、最低は南檜山圏の3.8となっています。

死亡では南檜山圏が16.9と最も高く、中空知圏16.4、北渡島檜山圏16.1、北空知圏16.1と続き、最低は札幌圏の10.0となっており、乳児死亡では上川中部圏が3.0と最も高く、発生件数の無い圏域は南檜山圏、北渡島檜山圏、北空知圏、上川北部圏、富良野圏、留萌圏、根室圏となっています。

死産では南檜山圏が101.0と最も高く、南空知圏36.5と続き、最低は富良野圏9.8となっています。

婚姻では札幌圏が4.9と最も高く、東胆振圏4.6と続き、最低は南檜山圏の2.5となっています。

また、離婚では根室圏が2.12と最も高く、釧路圏2.08と続き、最低は北空知圏の0.95となっています。

(表2)

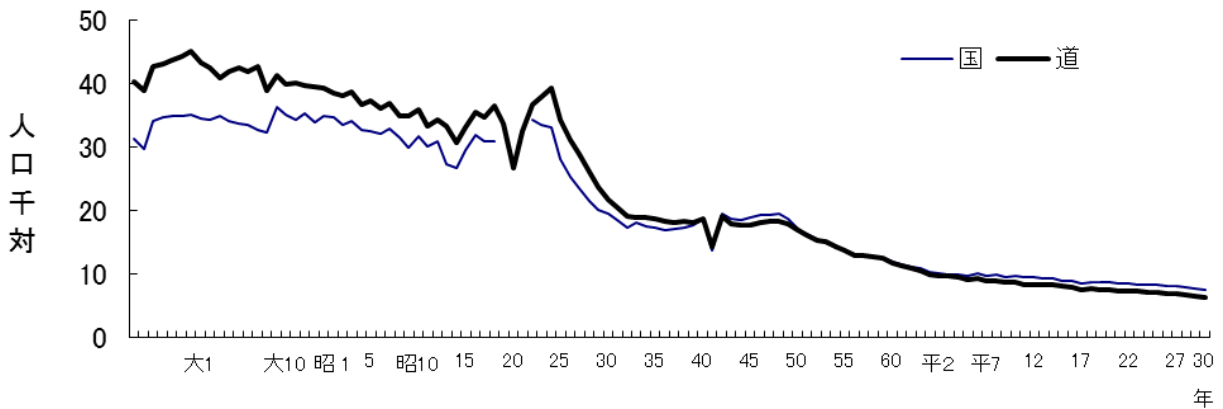
表2 二次保健医療福祉圏の人口動態

二次保健 医療福祉圏	出生	死亡	乳児死亡 (再掲)	新生児 死亡 (再掲)	周産期死亡			死産	婚姻	離婚
					総数	妊娠満22週 以後の死産	生後1週 未満死亡			
全道計	32 642	64 187	62	32	118	95	23	881	22 916	9 971
南渡島	2 004	5 379	2	0	6	6	0	53	1 454	742
南檜山	89	400	0	0	2	2	0	10	59	30
北渡島檜山	184	596	0	0	0	0	0	3	144	50
札幌	15 664	23 542	38	21	62	46	16	429	11 493	4 773
後志	1 011	3 308	2	1	3	2	1	24	683	323
南空知	740	2 627	2	1	3	2	1	28	467	228
中空知	502	1 779	1	0	2	2	0	10	336	149
北空知	138	526	0	0	0	0	0	4	105	31
西胆振	1 014	2 668	1	0	4	4	0	30	716	267
東胆振	1 407	2 508	1	0	8	8	0	45	983	435
日高	374	939	0	0	1	1	0	8	250	103
上川中部	2 368	5 168	7	4	5	4	1	62	1 529	762
上川北部	405	883	0	0	0	0	0	7	204	86
富良野	303	568	0	0	0	0	0	3	182	66
留萌	243	687	0	0	1	1	0	6	169	65
宗谷	383	842	1	0	1	1	0	8	238	112
北網	1 331	2 719	1	1	3	3	0	41	879	377
遠紋	378	1 068	1	0	0	0	0	8	243	108
十勝	2 228	4 011	2	2	10	8	2	67	1 478	613
釧路	1 385	3 115	3	2	5	3	2	22	962	490
根室	491	854	0	0	2	2	0	13	342	161
				実						
全道計	6.1	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	4.3	1.9
南渡島	5.3	14.1	1.0	-	3.0	3.0	-	25.8	3.8	1.95
南檜山	3.8	16.9	-	-	22.0	22.0	-	101.0	2.5	1.26
北渡島檜山	5.0	16.1	-	-	-	-	-	16.0	3.9	1.35
札幌	6.6	10.0	2.4	1.3	3.9	2.9	1.0	26.7	4.9	2.02
後志	4.7	15.4	2.0	1.0	3.0	2.0	1.0	23.2	3.2	1.51
南空知	4.4	15.8	2.7	1.4	4.0	2.7	1.4	36.5	2.8	1.37
中空知	4.6	16.4	2.0	-	4.0	4.0	-	19.5	3.1	1.37
北空知	4.2	16.1	-	-	-	-	-	28.2	3.2	0.95
西胆振	5.4	14.1	1.0	-	3.9	3.9	-	28.7	3.8	1.41
東胆振	6.7	11.9	0.7	-	5.7	5.7	-	31.0	4.6	2.06
日高	5.5	13.7	-	-	2.7	2.7	-	20.9	3.6	1.50
上川中部	6.0	13.1	3.0	1.7	2.1	1.7	0.4	25.5	3.9	1.94
上川北部	6.1	13.3	-	-	-	-	-	17.0	3.1	1.30
富良野	7.2	13.4	-	-	-	-	-	9.8	4.3	1.56
留萌	5.1	14.4	-	-	4.1	4.1	-	24.1	3.5	1.36
宗谷	5.7	12.6	2.6	-	2.6	2.6	-	20.5	3.6	1.68
北網	6.0	12.2	0.8	0.8	2.2	2.2	-	29.9	4.0	1.70
遠紋	5.4	15.3	2.6	-	-	-	-	20.7	3.5	1.54
十勝	6.5	11.7	0.9	0.9	4.5	3.6	0.9	29.2	4.3	1.79
釧路	5.9	13.2	2.2	1.4	3.6	2.2	1.4	15.6	4.1	2.08
根室	6.5	11.2	-	-	4.1	4.1	-	25.8	4.5	2.12
				比						
全道計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
南渡島	6.1	8.4	3.2	-	5.1	6.3	-	6.0	6.3	7.4
南檜山	0.3	0.6	-	-	1.7	2.1	-	1.1	0.3	0.3
北渡島檜山	0.6	0.9	-	-	-	-	-	0.3	0.6	0.5
札幌	48.0	36.7	61.3	65.6	52.5	48.4	69.6	48.7	50.2	47.9
後志	3.1	5.2	3.2	3.1	2.5	2.1	4.3	2.7	3.0	3.2
南空知	2.3	4.1	3.2	3.1	2.5	2.1	4.3	3.2	2.0	2.3
中空知	1.5	2.8	1.6	-	1.7	2.1	-	1.1	1.5	1.5
北空知	0.4	0.8	-	-	-	-	-	0.5	0.5	0.3
西胆振	3.1	4.2	1.6	-	3.4	4.2	-	3.4	3.1	2.7
東胆振	4.3	3.9	1.6	-	6.8	8.4	-	5.1	4.3	4.4
日高	1.1	1.5	-	-	0.8	1.1	-	0.9	1.1	1.0
上川中部	7.3	8.1	11.3	12.5	4.2	4.2	4.3	7.0	6.7	7.6
上川北部	1.2	1.4	-	-	-	-	-	0.8	0.9	0.9
富良野	0.9	0.9	-	-	-	-	-	0.3	0.8	0.7
留萌	0.7	1.1	-	-	0.8	1.1	-	0.7	0.7	0.7
宗谷	1.2	1.3	1.6	-	0.8	1.1	-	0.9	1.0	1.1
北網	4.1	4.2	1.6	3.1	2.5	3.2	-	4.7	3.8	3.8
遠紋	1.2	1.7	1.6	-	-	-	-	0.9	1.1	1.1
十勝	6.8	6.2	3.2	6.3	8.5	8.4	8.7	7.6	6.4	6.1
釧路	4.2	4.9	4.8	6.3	4.2	3.2	8.7	2.5	4.2	4.9
根室	1.5	1.3	-	-	1.7	2.1	-	1.5	1.5	1.6
				割						

(3) 出生

平成30年の出生数は32,642人で、前年の34,040人より1,398人減少し、出生率（人口千対）は6.2でした。性別出生数は男16,681人、女15,961人となっています。出生率の年次推移をみると、第一次ベビーブームの昭和24年の出生率は戦後最高の39.4を記録しています。その後急激に減少し、昭和32年には19.0まで減少しました。以後ほぼ横ばい状態で推移していましたが、昭和50年以降再び減少傾向に転じました。平成30年の出生率は6.2で過去最低になりました。また、全国値の7.4と比較して1.2下回っています。（図1）

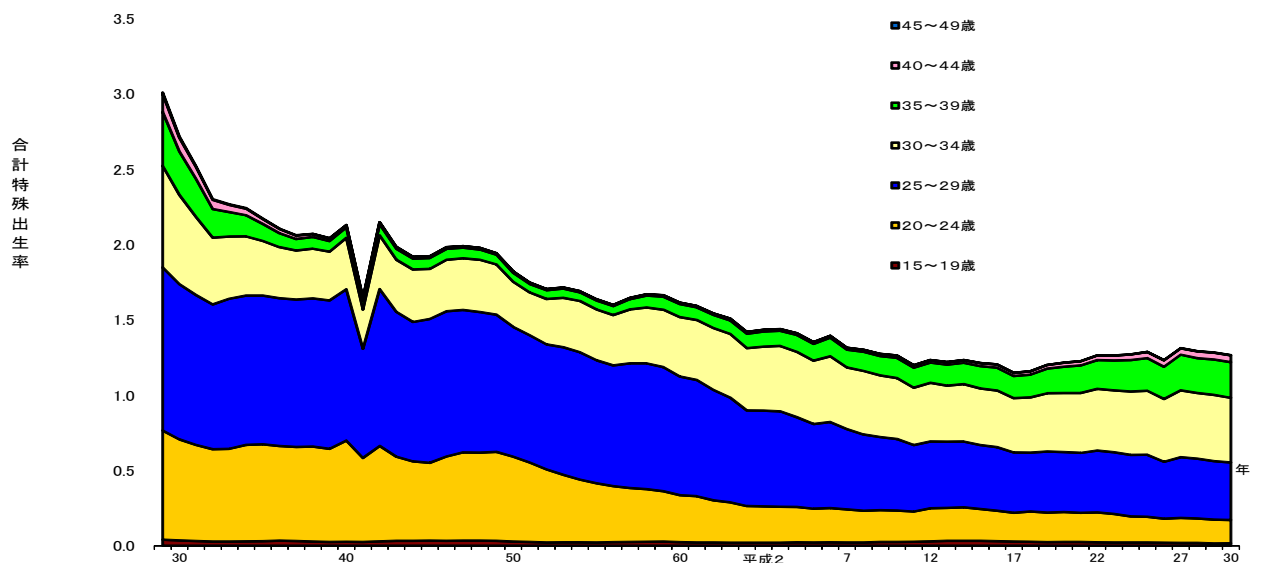
図1 出生率の年次推移(人口千対)



(4) 合計特殊出生率

合計特殊出生率の推移をみると、昭和25年は4.56と高い率でしたが、その後急激に低下し、昭和30年には3.0を割り、昭和30～40年代は「ひのえうま」（昭和41年）の特殊な動きを除けば2.0前後の水準で推移していましたが、昭和50年以降は再び低下傾向が続いており、平成17年には、1.15と過去最低値となりました。その後、増加傾向に転じ、平成30年は1.27となりました。母の年齢階級別出生率でも、各年齢階級とも昭和25年から急激に低下しています。昭和40年代になっても各年齢階級とも一定の水準で推移していましたが、昭和50年からは30歳代で上昇しているものの30歳未満の年齢階級では低下し、年齢階級毎に合計した合計特殊出生率は、低下傾向をたどっています。（図2）

図2 合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別)

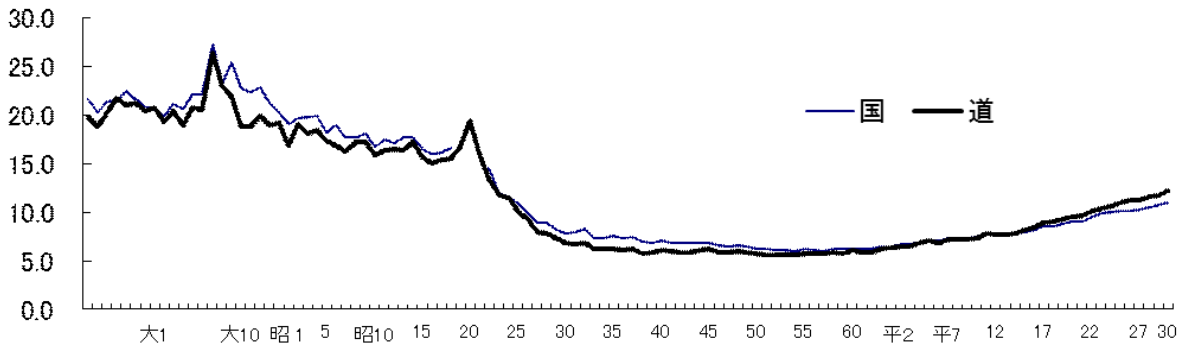


(5) 死亡

平成30年の死亡数は64,187人で前年の62,417人より1,770人増加し、死亡率（人口千対）は12.2で前年より0.4増加しました。男の死亡数は32,757人で前年の31,995人より762人増加し、女の死亡数は31,430人で前年の30,422人より1,008人増加しました。

死亡率（人口千対）の年次推移でみると、戦後急速に低下し、昭和30年代半ばから緩やかな低下傾向になり、昭和53年前後は5.6と最低の死亡率を記録したものの、その後は上昇傾向に転じています。（図3）

図3 死亡率の年次推移(人口千対)

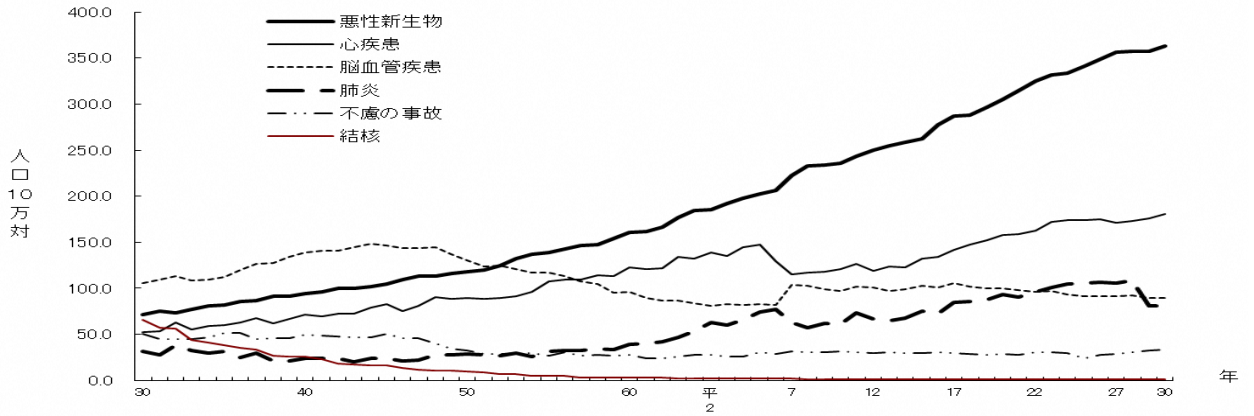


死因順位は、第1位は悪性新生物で19,442人・死亡率（人口10万対）362.7、第2位は心疾患で9,680人・死亡率（人口10万対）180.6、第3位は脳血管疾患で4,786人・死亡率（人口10万対）89.3となっており、死亡総数に占める割合は、悪性新生物30.3%、心疾患15.1%、脳血管疾患7.5%で、この3大死因が全体の約5割を占めています。（表3・図4・図5）

表3 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位・性別

死 因	平 成 3 0 年										
	総数		男			女			全国総数		
	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	死 亡 数	死 亡 率
全 死 因		64 187	1,197.5		32 757	1295.6		31 430	1109.9	1 362 470	1087.2
悪性新生物	1	19 442	362.7	1	11 069	437.8	1	8 373	295.7	373 584	298.1
心疾患	2	9 680	180.6	2	4 465	176.6	2	5 215	184.2	208 221	166.2
脳血管疾患	3	4 786	89.3	4	2 373	93.9	4	2 413	85.2	108 186	86.3
肺 炎	4	4 365	81.4	3	2 398	94.8	5	1 967	69.5	94 661	75.5
老 衰	5	3 908	72.9	6	997	39.4	3	2 911	102.8	109 605	87.5
不慮の事故	6	1 797	33.5	5	1 016	40.2	6	781	27.6	41 238	32.9
腎 不 全	7	1 477	27.6	7	736	29.1	7	741	26.2	26 081	20.8
血管性等の認知症	8	1 142	21.3	12	412	16.3	8	730	25.8	20 521	16.4
大動脈瘤及び解離	9	979	18.3	10	502	19.9	10	477	16.8	18 803	15.0
自 殺	10	905	16.9	9	626	24.8	14	279	9.9	20 031	16.0

図4 主要死因の死亡率年次推移(人口10万対)



死因順位の第1位を占めている悪性新生物の部位別死亡率を年次推移で見ると、男については、「大腸」及び「肝」は前年度より上昇しており、「胃」及び「肺」は減少しています。(図6)

また、女については、「胃」、「肺」、「乳房」、「子宮」及び「大腸」が前年度より上昇しており、「肝」は減少しています。(図7)

図5 平成30年主要死因の割合

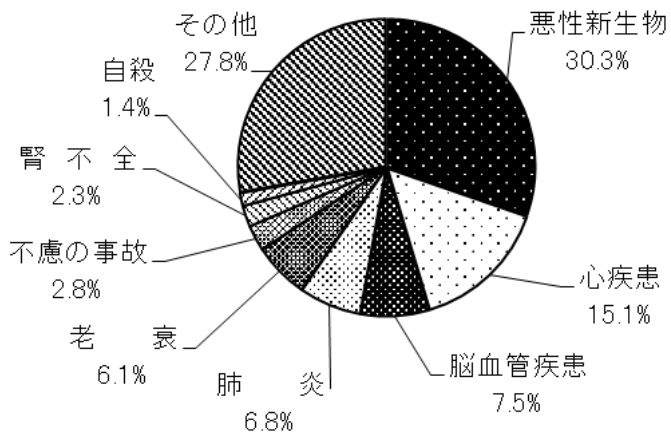


図6 悪性新生物の主な部位別死亡率(男)

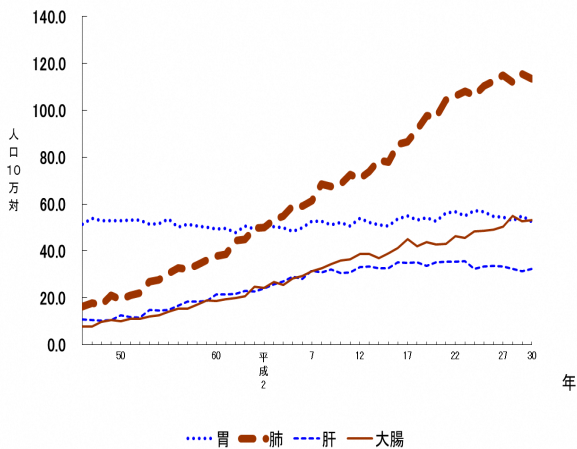
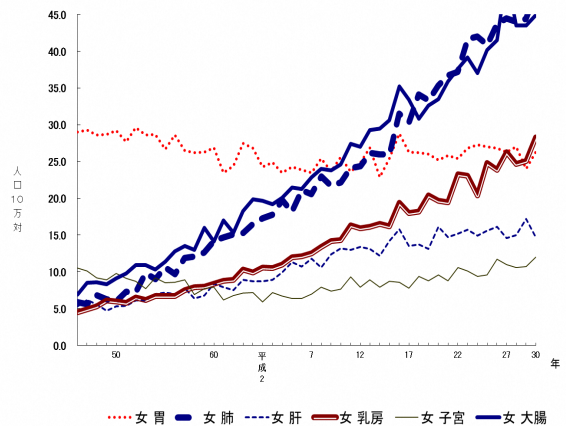


図7 悪性新生物の主な部位別死亡率(女)



(6) 乳児死亡

平成30年の乳児死亡(生後1年未満の死亡)は62人で前年より3人減少しており、乳児死亡率(出生千対)は1.9で前年から横ばいとなりました。死亡総数に占める割合は0.10%になっています。

乳児死亡率は昭和22年には82.8でしたが、その後一貫して低下傾向をたどり、昭和52年には10.0を割り、平成9年から3.0前後で推移し、平成20年から2.0台前半となっています。

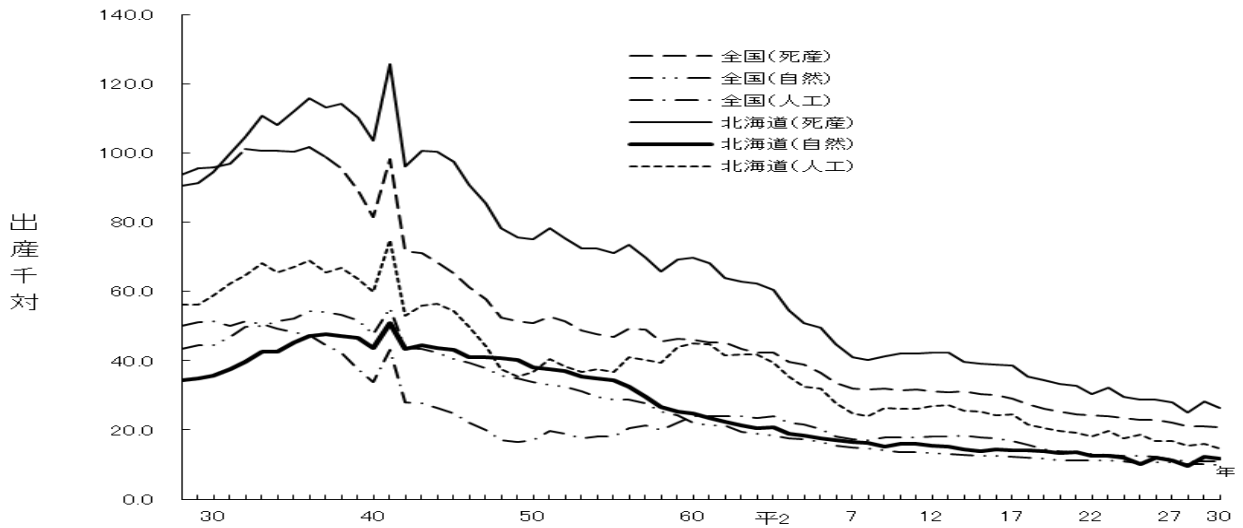
(7) 死産

平成30年の死産数は881胎で前年の990胎より109胎減少し、死産率（出産千対）は26.3で前年より2.0減少しました。

自然死産数は388胎で前年430胎より42胎減少し、自然死産率は11.6で前年より0.7減少しました。

人工死産数は493胎で前年の560胎より67胎減少し、人工死産率は14.7で前年より1.3減少しました。（図8）

図8 死産率(出産千対)



(8) 周産期死亡

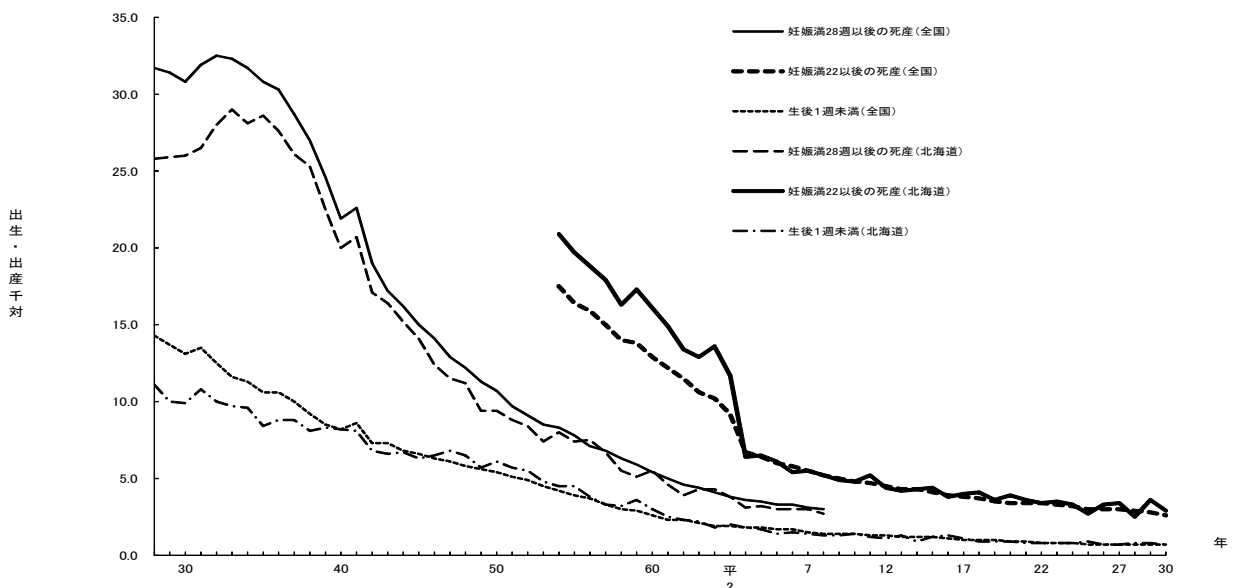
平成30年の周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数は118胎で前年の149胎より31胎減少し、周産期死亡率（出産千対）は3.6で前年より0.8減少しました。

妊娠満22週以後の死産数は95胎で前年より28胎減少し、妊娠満22週以後の死産率（出産千対）は2.9で前年より0.7減少しています。

なお、早期新生児死亡数は23胎で前年より3胎減少しており、早期新生児死亡率（出生千対）は0.7で前年より減少しています。（図9）

※周産期死亡の妊娠週数は、WHOの勧告に基づき平成7年から満28週から満22週に改定されています。

図9 周産期死亡年次推移



(9) 婚姻

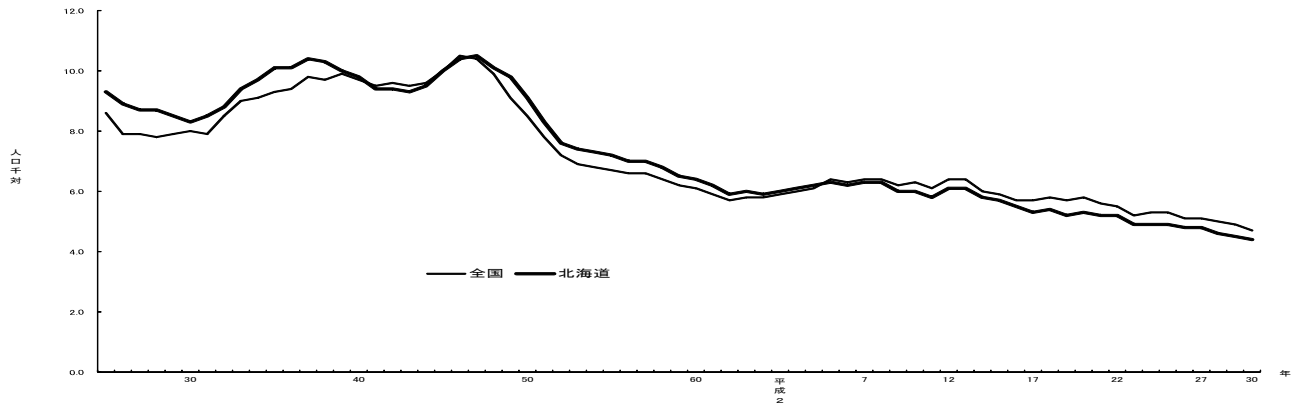
平成30年の婚姻件数は22,916件で、前年の23,960件より1,044件減少しました。

婚姻率の年次推移をみると、昭和20年代前半は10~11と高率でしたが、以後、急激に低下し、昭和30年には8.3まで下がりました。

その後上昇に転じ、昭和35~49年では1.0前後で推移していましたが、昭和50年から再び低下傾向が続いていました。

平成30年は4.4と前年より0.1減少しています。(図10)

図10 婚姻率(人口千対)の年次推移



平均初婚年齢をみると、夫30.8歳、妻29.5歳となって、第二次婚姻ブームの昭和47年の初婚年齢（夫26.0歳、妻23.8歳）と比べて夫は4.8歳、妻は5.7歳高くなっています。(図11、図12)

図11 平均初婚年齢の年次推移

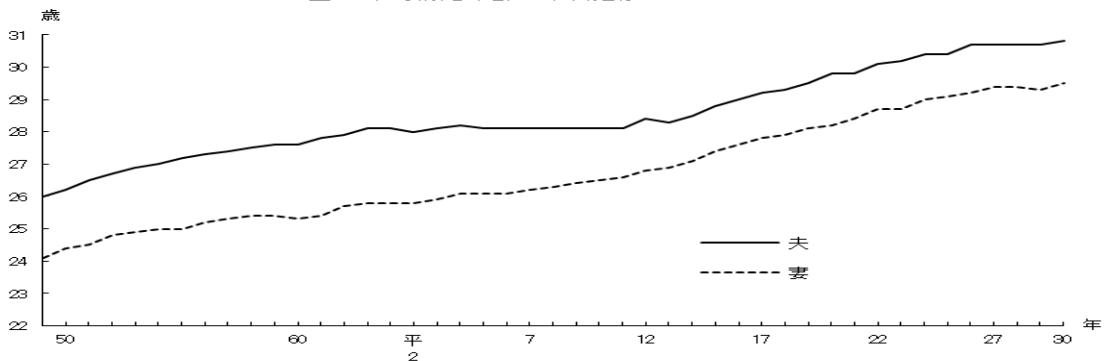
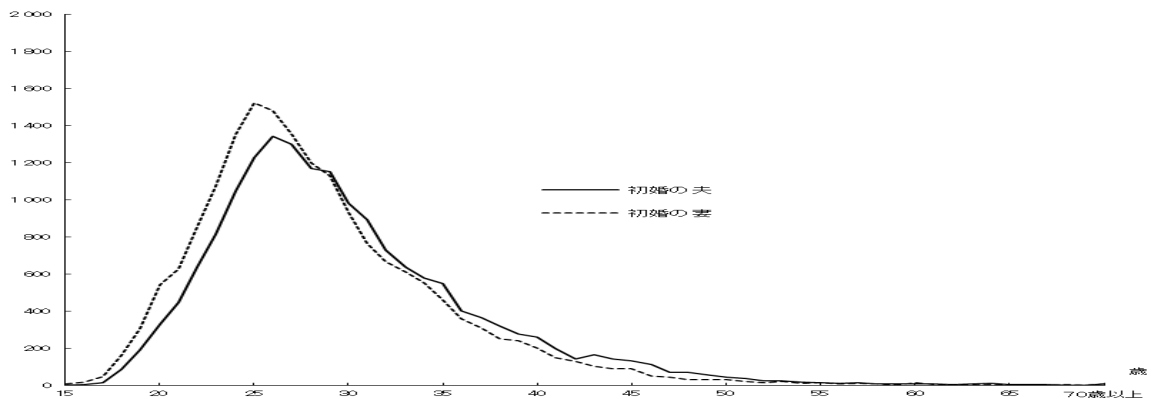


図12 夫初婚・妻初婚の年齢分布



(10) 離婚

平成30年の離婚件数は9,971件で前年の10,147件より176件減少しています。

離婚率（人口千対）は1.90で前年の1.92を0.02下回っています。

離婚率の年次推移をみると、戦後から昭和30年代までは、ほぼ横ばいで推移しましたが、昭和40年代から徐々に上昇し、昭和59年には2.33とそれまでの最高を記録しています。

その後、低下傾向にありましたが、平成3年から再び上昇し、平成14年には2.77と史上最高値を記録しました。（図13）

同居期間別の離婚割合では、20年以上が最も多く、また年齢階級別でみると、30歳代が高い割合を占めています。（図14、図15）

図13 離婚率(人口千対)の年次推移

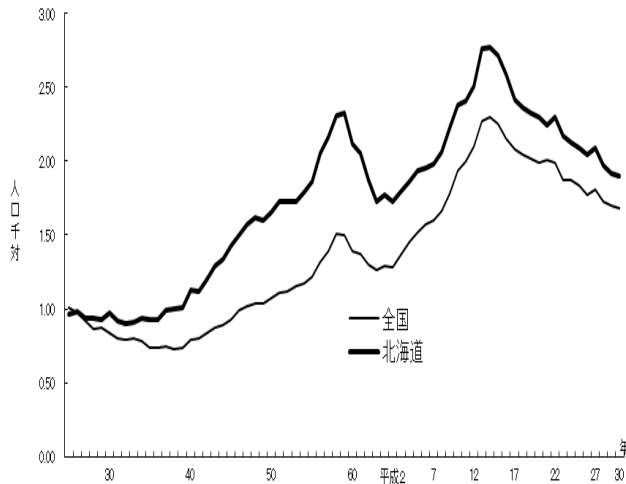


図14 夫妻の年齢階級別離婚件数割合

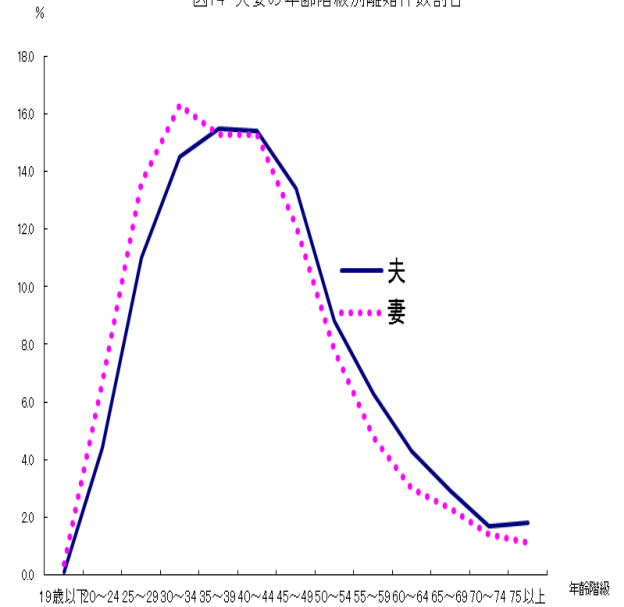


図15 同居期間別離婚件数割合の年次推移

